

平成30年度国庫補助金
地域活性化のための特色ある文化財（美術工芸品）調査・活用事業
「高良大社所蔵歴史資料調査」概要

●事業目的

高良山は古代から近世にかけて、筑後国の政治・軍事・宗教上の重要拠点で、近代以降は久留米市を代表する観光名所の一つにもなっています。

久留米市では、平成29年度より高良山エリアにおいて、文化財の状況把握と、保存活用のための基礎資料の作成を目的に、高良山総合調査を開始しました。その第1次調査として、平成29年度より3か年の計画で高良大社所蔵歴史資料調査を実施しています。

●事業期間

平成29年4月から平成32年3月までの3か年

●事業体制

事業主体 久留米市

事業組織 統括・経費執行事務 市民文化部文化財保護課（文化財保存活用チーム）

●調査内容の概要

【全体調査計画】

- ①資料のクリーニング（塵埃の除去、劣化防止のための養生）
- ②資料1点ごとの調書作成（名称・年代・作者・品質形状・法量・内容等）
- ③資料1点ごとの概要写真の撮影
- ④調書のデータ入力による目録作成
- ⑤調査成果の周知
- ⑥資料の保管措置（収納・配架等）
- ⑦報告書の作成・刊行

【平成29年度】

古文書及び書画、近代文書（明治・大正期）を中心に、上記①～④を実施した。

【平成30年度】

宝物館保管分の美術工芸品・考古資料、土蔵保管分の典籍類・近代文書（昭和戦前期）、社殿の天井絵等について、上記①～⑤を実施する。

【平成 31 年度】

補足調査及び⑤を実施し、⑥・⑦を完了する。

●調査成果の紹介（一部）

名 称 高良山十景詩歌

時 代 江戸時代

天和三年（1683）

作 者 堯憲、性激 他

品質形状 紙本墨書折本装

員 数 一冊

法 量 表紙 35.3×43.5 裏表紙 35.0×43.5

本紙①29.3×40.8、②28.2×40.8、③28.3×40.9、④28.2×34.4、⑤28.2×34.4

⑥26.2×34.5、⑦28.2×34.4、⑧28.2×34.5、⑨28.2×34.4、⑩28.2×34.5

⑪28.1×34.5、⑫28.2×34.5、⑬28.2×34.3、⑭28.2×34.4、⑮28.2×34.4

⑯28.2×34.4、⑰28.2×34.4、⑱28.2×34.4、⑲28.2×34.4、⑳28.2×34.4、

(21)28.2×34.4、(22)28.2×34.4、(23)28.2×34.4、(24)28.2×40.9、(25)28.3

×40.7、(26)28.3×40.9



高良山中興の祖と呼ばれる第五十世座主寂源の依頼で、公家歌人二十名が「高良山十景」それぞれを主題に漢詩と和歌を詠んだもの。久留米藩 4 代藩主有馬頼元（1654～1705）の命で装潢。金銀箔散桜等着色の台紙に切截のような文様散の紙を貼る。

名 称 社務所日誌

時 代 明治六年

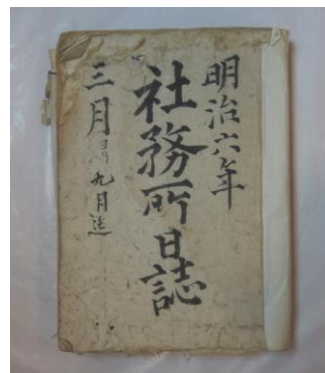
品質形状 縦帳

員 数 一冊

法 量 27.4×19.8

紙 数 182 丁（前後表紙含む）

高良神社の祭祀や来客、近隣の出来事などを記す。



社務に関する日誌は、半年または1年ごとにまとめられ、「社務所日誌」「社務日誌」「日誌」など名称は異なるものの、明治6年～昭和20年までのほとんどの年で確認できる。

本事業は、文化庁地域活性化のための特色ある文化財（美術工芸品）調査・活用事業国庫補助金の交付を受けて実施されています。

